

## 平成 26 年度 安全工学会 玉置功労賞

受賞者 安田憲二氏

### 選考理由

安田憲二氏は 1973 年東京都立大学大学院工学研究科工業化学専攻修士課程を修了され、同年、神奈川県公害センター（現、神奈川県環境科学センター）に入所されました。ここでは研究職として、主に廃棄物焼却施設について燃焼管理を主体とした有害物質の環境負荷低減に関する研究を行い、これらの成果をもとに 1980 年には焼却施設の大気汚染防止マニュアルを作成して、その後の環境保全行政に貢献されました。

ごみ焼却施設における事故調査、安全対策に関しては、1995 年 7 月に神奈川県内の清掃工場で発生した爆発事故の「事故調査委員会」の委員長として現地調査、分析・実験等を通じて爆発原因を「水素ガス爆発」と特定し、事故対策についても提言を行うなど、その後の類似事故防止に貢献されました。このほか、2003 年 11 月に大和市で発生した生ごみ処理施設における爆発事故でも事故調査委員会に参画し、事故防止に向けた提言等を行っておられます。

これらの経験をもとに、2000 年に神奈川県環境農政部廃棄物対策課に異動して、神奈川県ごみ白書や神奈川県廃棄物処理基本計画の作成に参画し、廃棄物処理行政に係る総合的な施策の策定に関与されました。また、2000 年に発覚した藤沢市におけるダイオキシン類汚染についても、現地調査や技術的な検討を行うなど、早期の問題解決に貢献されました。

2004 年京都大学で博士（工学）を取得後は神奈川県を早期退職し、岡山大学大学院特任研究員、（独）国立環境研究所のフェローとして廃棄物焼却施設におけるダイオキシン類、水銀などの有害物質排出抑制に係る研究を継続されました。安田憲二氏の廃棄物処理に関する研究は対外的にも評価されており、1984 年 11 月に大気汚染研究協会（現、大気環境学会）の学会賞、1995 年廃棄物学会（現、廃棄物資源循環学会）から論文賞を受賞し、さらに地球温暖化防止に向けた長年の研究が評価され、IPCC（国連「気候変動に関する政府間パネル」）の 2007 年度ノーベル賞受賞に際して IPCC 活動への貢献に対する賞を受賞されました。

これらの経験を活かして、1990 年代の初めから安全工学会の編集委員として、約 25 年にわたって学会誌の編集に関わり、「環境評価特集号」など多くの特集号の作成のほか、総説等に多くの報文を投稿されました。また、約 10 年間は普及委員としての活動も行っておられ、このほか、安全工学会の「廃棄物安全研究会」に所属して、廃棄物処理施設等の見学会や討論会への参加、安全工学シンポジウムでの進行役など、長期間にわたって安全工学会の活動に参加されており、同氏の活動は玉置功労賞にふさわしいものであると認められます。

受賞者 安田 憲二 氏

- 1973年 東京都立大学大学院工学研究科工業化学専攻修士課程修了  
同年 神奈川県公害センター（現、神奈川県環境科学センター） 入所  
2000年 神奈川県環境農政部廃棄物対策課 課長代理  
2002年 神奈川県横須賀三浦地区行政センター 環境調整課長  
2004年 京都大学で博士（工学）を取得  
同年 岡山大学大学院自然科学研究科 特任研究員  
2007年 （独）国立環境研究所 NIES フェロー  
2011年 一般社団法人 国際環境研究協会 環境研究総合推進費 プログラムオフィサー  
現在に至る